

【小論文】 出題意図・解答例

問題 1

【出題意図】

1. 受験者の社会的関心と時代認識を評価する意図

- この設問は、「注目している動向」について問うことで、受験者が現代の保健医療福祉における重要課題を把握しているか、そしてその背景や社会的文脈をどう理解しているかを見ています。
- 単なる流行語や政策名の列挙ではなく、それに対する個人的な関心や問題意識の深さが問われています。

2. 課題発見・課題分析能力を問う

- 「看護実践上の課題」を明確に指摘できるかどうかは、受験者が看護職としての現場感覚と専門性を持っているかどうかを判断する重要な材料です。
- 実体験がある場合はそれに基づく記述が望ましく、具体的かつ現実的な課題提示が評価されます。

3. 論理的な問題解決力と意欲の評価

- 「どのように取り組むか」という設問は、受験者の課題解決への意欲、計画性、実践性、将来像を明らかにする部分です。
- 単なる理想論ではなく、自らの立場や進路(例：大学院での学び)と接続させて構想できるかが重視されます。

4. 総合的な文章構成力・表現力の評価

- 採点は小論文としての構成・論理の一貫性や表現力も重視されるため、序論→本論→結論の明確な構造であるか、論旨がぶれずに展開されているかを見ています。

<出題者が受験者に求めていること>

- 単なる「知識」ではなく、現代社会に対する問題意識と、自らの看護実践との関連づけができているか。
- 「課題」に対して、倫理的・制度的・現場的な多面的視点から考察できているか。
- 自分の将来の看護職としてのビジョンや貢献意欲を持っているか。

【解答例】

現在、保健医療福祉分野において注目されている動向の一つに、「トラウマ・インフォームド・ケア (Trauma-Informed Care: TIC)」の導入と推進がある。TICとは、心的外傷の経験が個人の健康行動や対人関係に影響を及ぼすという前提に立ち、すべてのケア提供者がその理解に基づいた支援を行うことを目指すアプローチである。欧米諸国では、精神科病院や福祉施設、教育機関などでの導入が進んでおり、日本でも近年、児童虐待やDV、災害などによるトラウマ体験を持つ人々への支援において注目されつつある。

このような動向を踏まえると、看護実践上の課題として、「トラウマに配慮した看護実践が十分に浸透していないこと」が挙げられる。特に精神科領域では、非自発的入院や身体拘束などの経験が二次的トラウマにつながる危険性があり、看護師の無意識的な言動や対応が患者に再トラウマを与える可能性もある。しかし、看護現場においてはTICの概念が十分に共有されておらず、体系的な研修の機会も限られているのが現状である。

この課題を解決するためには、まず看護師がTICの基本的な理念を学ぶ機会を確保することが重要である。具体的には、院内研修プログラムにTICに関するモジュールを組み込み、事例検討やロールプレイを通して理解を深めることが有効である。また、患者との信頼関係を築くうえで、過去のトラウマに配慮したコミュニケーションの重要性を共有する文化を職場全体で醸成することも求められる。

私は今後、看護師がTICの視点を持って日常のケアに取り組めるよう、教育プログラムの開発や現場での普及活動に貢献していきたいと考えている。そのために、大学院で理論と実践を体系的に学び、研究を通じて日本の看護実践にTICを根づかせるための方略を探究したい。

問題 2

【出題意図】

長い間にわたって看護職は、専門職に関する議論の上で半専門職として評価されてきた側面があり、専門職として確立すべく努力を重ねてきた。看護職が専門職として確立する前提には、個々の看護職が高い専門職意識を持つことが必要であるが、看護職の教育背景は多様であり、専門職意識は個人による差が大きいと考えられる。看護職は高い専門職意識を持ち、自身の知識や技術を最大限に発揮することで専門職として確立していく必要がある。そこで、看護職が専門職である理由について問いたいと考えた。

【解答例】

私は、看護職は専門職であると考え。その理由は下記の 3 点である。

1 点目は、高度な知識体系を持つことである。看護職は高度に体系化した理論的知識・技術を持ち、長期間の教育訓練を受けている。そして、国家資格を得て、それぞれの看護師の臨床判断のもと看護実践を行っている。2 点目は、公共性を持つことである。公共的な利益を目的とし、専門職集団により倫理的規範を有している。3 点目は、自律性である。看護職は自律性を有し、職業団体の価値基準に従って自分を律している。

しかし、看護職は専門職として、今後の課題も多い。高度な知識体系はもっているが、養成課程の教育が多様であることから、看護師が看護学独自の高度な知識体系を確立する必要がある。また、看護実践の可視化が重要であるものの、業務は多忙化し、研究へ取り組む時間の確保が困難な現状がある。しかし、科学研究により看護学の知を創造することは重要であり、その意識を持つことが必要といえる。公共性として、専門職能集団の組織化が重要となるが、職能団体である日本看護協会への加入率は半数程度にとどまっている。専門職能集団は、看護職の知識・技術の発展を牽引している。看護職として職能団体の重要性を理解し、積極的に関与し、看護職という職能集団としての役割の重要性も認識する必要があると考える。自律性として、看護師自身の専門性のとらえ方が不明確という点がある。療養上の世話に対して、臨床においては医師の指示を受ける場面も散見されるが、看護職は自律的な臨床判断に基づいて患者ケアを行うことが求められている。

看護職が専門職として確立する前提には、個々の看護師が高い専門職意識を持つことが必要である。重要なことは、看護職が専門職であるために、看護職を取り巻く状況を常に把握しつつ、看護職として学び続け、自らが成長しようとする意識であると考え。